

# 地域小学校の総合的な学習を通じたまちづくり授業のその後

## ～生徒と保護者への5年後の追跡調査～\*

A follow-up study on coursework for urban development at an elementary school in Nihonbashi-muromachi\*

鈴木葉子\*\*・岩倉成志\*\*\*・野中康弘\*\*\*\*・市川健太\*\*\*\*\*

By Yoko SUZUKI\*\*・Seiji IWAKURA\*\*\*・Yasuhiro NONAKA・Kenta Ichikawa

### 1. はじめに

現在、子ども会や自治会のような地域の共同・交流の機会も衰退し、行政や事業主導となった住民参加型まちづくりという『場』を設け、限られた地域住民しか関与せずまちづくりが行われている。

今後、地域活性化や福祉、環境問題への関心が高まり、より一層地域住民の自主的な参画や協同が必要不可欠である。そのためには、意欲ある限られた地域住民だけではなく、多くの方が無理なくまちに関心を持つことが必要である。その礎を築くためには、永続的に受け継がれ、場当たりの啓蒙ではなく、長期的なまちづくりの理念と思想を含めた教育が重要となる。特に、まちと密接に関わる小学生時代に地域への関心を持てる教育を実施することに意味があると考えられる。

この実践として、2004年に東京都中央区常盤小学校の5年生(1クラス)を対象に、2学期と3学期の総合的な学習の時間に『日本橋の未来を考える』というテーマの地域学習を実施した。この教育を通じ、まちへの関心や地域の愛着を育むきっかけづくり、そして生徒を通じて保護者をはじめ地域への波及効果を目指した。この類の地域学習は、土木計画の分野では数多く実施されているものの、実施した後にこの授業を通じて伝えたまちへの関心や地域への愛着が経年的にみて定着しているかを追跡している研究事例はほとんどない。

そこで本研究では、2004年当時の授業が生徒にどのような効果を与えているのかということを追跡調査する。継続的に変化を観測し教育の経年変化を知り、今後の教育プログラムを設計する際の基礎データとなることを目指している。

\*キーワード：地域計画、都市計画、地区計画

\*\*非正員、工修、財団法人道路新産業開発機構

(東京都文京区関口1丁目23番6号、TEL：03-5843-2938、

E-mail：yoko.suzuki@hido.or.jp)

\*\*\*正員、工博、芝浦工業大学土木工学科専攻

\*\*\*\*正員、工博、株式会社道計画

\*\*\*\*\*学生員、芝浦工業大学土木工学科

### 2. 2004年に実施したまちづくり授業

#### (1) 実施概要

対象学校：東京都中央区立常盤小学校

東京都中央区日本橋本石町4-4-26

対象学年：小学5年(25名)

授業期間：2004年9月～2004年12月 3ヶ月間

授業回数：25コマ

#### (2) まちづくり授業のプログラム

この授業のプログラムは、まず日本橋のまちの未来を考える機会と新たな日本橋まちづくりのあり方を考えることで地域に親しむこと、そして、生徒一人一人の探究心や問題解決能力、積極的に人にかかわろうとすること、そして自分の思いを相手に伝えようとする表現力を促すことを目的とした。

具体的な授業設計は表1に示すように、5段階のステップを設け段階的な授業設計を実施した。

ステップ1 日本橋を知る(地域のことを正しく理解)

インターネットや図書など様々な情報を収集・整理

ステップ2 日本橋をみる(現場視察)

ステップ1で情報を整理した上で、実際に地域を見学

ステップ3 日本橋を考える(発想を整理し提案作成)

KJ法から問題を整理し、提案を作成

ステップ4 日本橋をつくる(模型作成)

ステップ3で提案を模型としてカタチに創出

ステップ5 自分たちの提案を発表する(プレゼン)

自分たちの提案をまちの方にわかりやすく伝える

### 3. まちづくり授業の追跡調査

本研究では、2004年にまちづくり授業を受けた当時小学5年生(現在17歳)とその保護者に対して、「まちづくり授業が何かをするきっかけとなった」「地域に対する意識」「地域づくり・まちづくり意識」に関するアンケート調査を実施し、得られたデータをもとに、5人で1グループによるインタビュー調査を実施する。以下に調査の概要を示す。

表 - 1 授業設計の概要

ステップ	テーマ	コマ数	内容	備考
1	日本橋を知る	2	日本橋のまちの説明	
		2	調べ学習	
2	日本橋をみる	4	まち歩き	
3	日本橋を考える	2	グループ分けとグループごとの地域の問題点を整理	
		3	大学教授によるまちづくりとスケール感覚の授業	
		2	提案づくり	
		3	まち歩き	
		2	模型の下地作り(提案を地図上に落とし込む)	社会科見学授業
		2	模型の下地作り(提案を地図上に落とし込む)	
		2	中間発表と意見交換	保護者参観日
4	日本橋をつくる	4	模型づくり	
		3	模型づくり	
		3	模型づくり	
		3	模型づくり	
		3	模型づくり	
		3	模型づくり	
5	自分たちの提案を発表する	3	発表練習	
		1	最終学内発表会	全校生徒への発表
		2	発表会	保護者・まちの方が参加



図 - 1 授業の様子

### (1) 調査概要

授業実施から5年という歳月もありため、本調査は常盤小学校の校友会(OB会)の協力を頂き、校友会から調査票を郵送するという方法で実施する。調査票は、当時小学5年生(25名)と保護者の2種類を作成している。また、調査票を回収後、アンケート調査項目の内容をより深く聞かため、グループインタビュー調査を実施する予定である。

### (2) 調査項目

本研究において分析に使用した調査項目は、「まちづくり授業の可能性」、「日本橋への愛着」、「自分の住む地域への意識・態度」、「まちづくりへの意識」の4項目である。調査票においては、個人属性、まちづくり授業に関する質問項目、まちづくり授業がきっかけとなり何かをするようになったという現在の態度を設問とする。

また、5年が過ぎていることから、当時のまちづくり授業実施後のアンケート調査や感想文など個別の生徒のまちづくりへの関心や提案内容を提示し、当時の記憶を鮮明にする工夫をする。

### (3) 調査結果を踏まえ整理すること

#### a) まちづくり授業の可能性

表1に示す当時の授業カリキュラムの効果や課題を明らかにする。

#### b) 日本橋への愛着・自分の住む地域への意識等

この授業をきっかけとなった意識や態度、行動の変化を生徒本人と保護者との意見を収集し、その結果からまちづくり授業のきっかけと印象づけられている態度を影響の度合いで整理する。

### 4. おわりに

本研究は、まちづくり授業が長期的ないし経年的な影響について調査を実施する。アンケート調査とインタビュー調査から、このまちづくり授業が影響した態度を整理し、今後のまちづくり授業の設計の基礎データとして整理する。調査は8月～10月に実施予定であるため、講演時に調査結果を報告したい。

### 参考文献

- 1) 鈴木葉子：地域小学校の総合的な学習を通じたまちづくり～日本橋 学生工房の活動を通じて～、土木計画学研究発表会、No.32、2005.11.